

事業報告

国内の景気は、新型コロナウイルスの長期化に加え、ロシアのウクライナ侵攻により・世界的に原油・エネルギー問題が発生し、日本の経済においても大きな影響を受け、原油価格の高騰、急激な円安、価格高と依然として厳しい状況であり、日本政府は、昨年4月26日「総合緊急対策」を決定しました。

十勝については、昨年同様、新型コロナウイルスの影響を色濃く受けたものの、十勝農業は24JAの農畜産物取扱高が3,494億円を記録するなどの明るい兆しが見られました。

このような状況の中で、トラック運送業界を取り巻く環境を見ますと、人材不足が一層深刻化しドライバーの高齢化にも拍車が掛かり、更には燃料価格の高騰、労働規制、安全対策、環境対策などの社会的規制の強化によるコスト増など、数多くの課題を抱える厳しい状況が続いております。

1. 会員数と車両数

令和4年3月31日現在	会員数 329 社(81.4%)	車両台数 6,832 台(90.3%)
	非会員 75 社	737 台
令和5年3月31日現在	会員数 327 社(81.5%)	車両台数 6,791 台(90.1%)
	非会員 74 社	750 台
	(入会 5 社、退(休)会 7 社)	

2. 交通事故防止対策の推進

安全意識の高揚を図るため、関係機関の協力をいただき、交通事故死0競争の展開、交通事故防止に係る各種研修会の開催、凍結・降雪路面シミュレータ体験研修会や初任運転者特別指導研修会を実施するとともに文書による啓発活動と従業員教育の徹底に努め、適切な運行管理を推進しました。

また、「デイ・ライト運動」「シートベルト 100%着用運動」「エコ・ドライブ走行」に積極的に取り組み「チャレンジ・セーフティラリー北海道 2022」にも1チーム5人が508チーム2,540名、1チーム3人が122チーム366名の参加者となりました。

3. 適正化事業の推進

輸送の安全と秩序ある輸送体制の確立を重点として、当初計画に基づき事業所巡回訪問指導、パトロールによる啓発活動をはじめ、新規事業許可取得事業者に対する特別指導を実施いたしました。

また、適正化事業帯広地区連絡会議により、帯広運輸支局との情報交換及び適正化推進等の協議を進めました。

本年度における巡回指導件数は157事業所です。

4. 近代化基金融資状況

トラック運送事業の振興を図るため、近代化・合理化の促進、輸送力の増強及び従業員の福利厚生施設の整備などを目的として、利子補給による長期低利の融資を全道40億円の枠内で実施しました。

1) 一般資金	2件	30,515千円
2) ポスト新長期資金	6件	82,433千円

5. 環境・安全対策助成事業の取扱状況

1) ドライブレコーダー機器等導入促進助成		
33社	157台	2,666千円
2) 安全装置（バックカメラ）導入促進助成		
11社	43台	1,164千円

6. ドライバー健康診断の実施状況

ドライバーの健康状態に起因する事故の防止を目的とした集団健診を15日間、7地区で実施しました。受診者数は次の通りです。

受診者数 2,198名

7. 深夜業務従事者健康診断の実施状況

深夜業を含む業務に従事する運転者のための集団健診を実施しました。受診者数は次の通りです。

受診者数 580名